

勝林寺々報

臨時号

昭和五十九年度

代議員会議案のあらまし

昭和五十八年をふりかえつて

昭和五十九年度は動きの多い年でした。

寺の行事としては例年の「法要」のほかに春と秋

「前坊守・前坊守年回法要」「前住職三回忌法要」

「前坊守・前坊守年回法要」「前住職三回忌法要」

をつとめました。また仏社・仏壇の組織においても、いつもの研修会や旅行などに加えて、それが郡連盟の会旗の旗びらきを祝う「合同開法の集い」やソフトボール大会も実施企画されました。なかでも「兵庫教区仏婦幹部研修会」

を勝林寺で担当開催したことは特筆すべきです。

昭和五十九年度は、昭和五十八年度は動きの多い年でした。寺の行事としては例年の「法要」のほかに春と秋「前坊守・前坊守年回法要」「前住職三回忌法要」をつとめました。また仏社・仏壇の組織においても、いつもの研修会や旅行などに加えて、それが郡連盟の会旗の旗びらきを祝う「合同開法の集い」やソフトボール大会も実施企画されました。なかでも「兵庫教区仏婦幹部研修会」を勝林寺で担当開催したことは特筆すべきです。

昭和五十九年度は、昭和五十八年度は動きの多い年でした。寺の行事としては例年の「法要」のほかに春と秋「前坊守・前坊守年回法要」「前住職三回忌法要」をつとめました。また仏社・仏壇の組織においても、いつもの研修会や旅行などに加えて、それが郡連盟の会旗の旗びらきを祝う「合同開法の集い」やソフトボール大会も実施企画されました。なかでも「兵庫教区仏婦幹部研修会」を勝林寺で担当開催したことは特筆すべきです。

二、昭和五十八年度会計決算概要
経費・収入と経常費割収入は予算を少し上回つて完全に収入されました。結果年度の政総額は百七十五万三百七十三円でした。

代議員決議によつて設けられた「運営規定見なおし委員会」によつて検討修正された改正案を今次の代議員会に報告し審議していく段どりになつています。

施設の面においては書院玄関屋根のふきかえ工事がなされましし門柱も寄附によつて建てられました。

代議員決議によつて設けられた「運営規定見なおし委員会」によつて検討修正された改正案を今次の代議員会に報告し審議していく段どりになつています。



経常費会計の支出は、總体に物価高騰もあつて予算に対しても支出増の出た項目が多くありました。公課金（本山・教区などへの義務金支出）では約四万円の支出増、その他當鑑費・教養費・教化費でも若干の赤字支出でした。また法要費のうち報恩講・永代經・両彼岸ではかなりな支出オーバーをみました。が、法要費のうちの二回の年忌法要の予算は当日の香賀懲志の多収納にたすけられ、この会計からの支出が大はばに低かつたため、法要費全体としてはむしろ若干の黒字を出した。

実支出手合計は百七十三万七千三百三十四円でしたので、実収入からの残額一万三千二百三十九円を明年度へ繰越金として送ることになりました。このように今年度会計は帳簿の上ではますます順当に決算することができますたが、たとえば「勝林寺寺報」の経費は一切上げられていましたが、その他の「勝林寺テレホン法話」の架設費、会議や法要時のおときの費用など相当な積み残しのあることも事実です。

四、昭和五十九年度へのねがい

昭和五十九年度は「内容整備充実へ努力する年」にしたいと願っています。

兵庫教区でも今年度は、教化というものを見なおすという観点から「組画変更」ということが実施されます。住職はここ二三年この「組画変更」の運動の中核にかかわって参つています。そういうこともあつて今年は、勝林寺にあつても特に教化面において努力がなされねばならぬと思います。

まず、長年の懸案であつた「過去帳の整備」はようやくほぼ半数の部落についてその素資料ができました。今年は是非この素資料だけは完成したいと思ひます。

次に、「勝林寺寺報」「勝林寺テレホン法話」という伝道教化のためのたては一応できたものの、現在ではその読聴率は極めて低い状態です。編集方法や放送内容などご門徒全体の意見創意を得て改良すると同時にPRにも一段の工夫をしなければなりません。

他地域他宗の人々へも真宗の道を積極的に伝えゆく努力が必要です。

なお、ご法義の正しいありかたを保つために、たとえば葬儀の仕方について浄土真宗らしい法式をみんなの努力で正しく保つてゆきたいと思いましてゆく努力が必要です。

さて、そのために今年は「浄土真宗の葬儀法式」なる冊子をつくると共に、葬儀を機に「浄土真宗のおつとめ」をおぼえていたため録音テープを出します。

仏教徒年会はとくに今年但馬豊岡で兵庫教区の仏壮大会（四月十五日）が開催されることもあって今最も重要な課題は会員の拡大による活動会計の安定化です。門徒壮大年会員加入によつて名実とも一泊研修会」を企画します。また従来の「念佛奉仕団」だけではなく、私たちの寺勝林寺への奉仕・開法活動を進めて参ります。

まず収入予算について。
これまで、勝林寺は次々に大事業にとり組んで参りました。庭園・書院の屋根葺替え、本堂大屋根大改修など、そのうえ前住職前坊守の葬儀及び年回法要等、毎年特別の大きな負担をご門徒におかけし法要等、毎年特別の大きな負担をご門徒におかけしました。おかげで勝林寺のだよすまいは見事に更新しました。長期にわたるご負担、心から感謝を致します。

一方そのためには経常の会計は極力抑制して参りました。この間諸物価高騰しつづけるなかで経常会計はすでに経理困難な状態にまで落ち込んでしまつております。

たとえば寺の活動のなかでいちばん重要な伝道教化の一の中心になる事業である「勝林寺寺報」などの費用も経常会計からは全く出ない状態です。

そこで今年度は、寺の活動が一応保障できる予算を組みたいと思ひます。そのため昭和五十四年以来の費用も経常会計からは全く出ない状態です。

そこで生活費高騰の折、お願い申しにくいことですが事情ご質問ください。

一等 六十二戸（旧一万円） 新一万二千円
二等 百十六戸（旧七千五百円） 新九千円
三等（三十戸）（旧四千円） 新五千円

以上の割金と繰越金・雑収入合わせて予算総額は百九十六万三千二百三十九円となります。

した。

今回の代議員会の重要な議題の一つに「門徒総代の選出」があります。



六門徒総代の選出

今年は門徒総代改選の年です。
従来から「ウルウ年」の代議員会においてこれを行なつて参りました。

総代および総代の選出について「運営規定」には次のようにうたわれております。

第四条（機関）の三項

総代会 門徒総代によつて構成し住職の諮問に応えると共に、住職を補佐して行事・事務等につき立案計画し執行する。

第五条（総代）

一、総代は六名とする。またその内一名の代表総代を互選によつて設ける。
二、総代は代議員会において門徒全体の中から選ばれた者を住職が委嘱する。
三、総代の任期は四年とする。但し再任を妨げない（略）

代議員会においての選出は從来

但東町から三名

室埴地区から一名

出石・小坂・豊岡地区から一名

小田地区から一名

を選出する慣例になつております。

ちなみに代議員についての運営規定関係条項を掲げておきます。

第四条（機関）の第三項

代議員会 代議員によつて構成し、門徒の意見を代表して規定の改廃・予算決算の承認・行事事務等について協議すると共にその運営推進の任に当る。

第六条（代議員）

一、代議員は「申し合せによる地区」（別表）ごとに同表に示された定数を選出する。
二、代議員の任期は一年とする。但し再任を妨げない。

以上

署名による協力を

生れがたい人間に生れました。
会いがたいお念仏のおみのりに会わせていただいています。

この得がたい尊いのちを有難く思うにつけても、

私たち手をとつて撲滅の運動をおこさねばなりません。

このいのちをムザムザと惡うものへ、私たち仏教婦人会が行なつてゐる

「覚せいさい撲滅署名運動」にご協力ください。

いのちを育て守る母の立場から

「勝林寺門信徒台帳書きなおす運動」にご協力ください。

門信徒台帳書きかえ

四年に一度

「勝林寺門信徒台帳」を書きなおします。

たとえば、入学祝・成人式の祝、またはお葬式のとき法名を書く場合、それから別修報恩讐などにお年寄りをおます。下の例を見て詳しくていねいに書いてください。

（略）

勝林寺門信徒台帳

昭和59年1月現在

世帯主 住所	出石郡出石町内町59					番地：郵便番号(668-02) 電話(079652-3083) 有線(2578)
世帯主との 続柄	氏 名	生 年 月 日	性 別	現 住 所	法 名	
世帯主	勝林 太郎	14.1.1	男	出石郡出石町内町59	正信院釈迦牟尼佛	
妻	勝林 花子	56.2.2	女	同上	秋萩葉	
長男	勝林 豊	29.3.3	男	同上 (出石町役場勤務)		
長男の妻	勝林 庄代	34.4.4	女	同上		
孫	勝林 亮夫	56.5.5	男	同上		
次男	勝林 吉郎	33.6.6	男	京都市下京区油小路通木津上 祇園信次様前(京都府警西署)		

ここに、ご本山で「オガミソリ」を受けたときいたいた法名、あるいは月勝林寺で受けた法名がみれば書いて下さい。

「あヒトリ」がもし別居している場合は
その住所(郵便番号も)を明記下さい。